

目指す学校像	大宮南小学校で学ばせたいとの期待と信頼に応えられる学校
重点目標	1 個別最適な学びと協働的な学びの実現、さいたま市スマートスクールプロジェクト(SSSP)の推進 2 安全・安心の教育環境の整備と教育相談体制の充実 3 コミュニティースクールの充実と学校・家庭・地域のさらなる連携強化 4 働き方改革の一層の推進、学校課題研究の推進

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価
年 度 目 標							実施日令和7年2月13日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<現状> ○全国学力学習状況調査では、概ね良好な結果である。また、無回答率が低い。 ○さいたま市学習状況調査でも、概ね良好な結果である。 ○日頃の学習の様子から、タブレット端末を活用し、自分の意見を発信したり、友だちの意見を閲覧したりすることに意欲的に取り組んでいる。 <課題> ○全国学力学習状況調査、さいたま市学習状況調査ともに個人差が大きい。 ○探究的な学習に関して、成果があったため、今年度も維持する。 ○タブレット端末の利用は進んでいるが、教員による利用の格差がある。	○個別最適化と協働的な学びに向けた授業改善	①全国及び市の学習状況調査の最新の結果をもとに、市教委の学力向上カウンセリング研修を受け、学校全体の児童の学力向上を図る。 ②ドリルパーク・スタディアプリの活用により、国語・算数の基礎・基本の徹底を図る。加えて、オリング・ムーブノートの活用により、協働的な学習を推進する。	①さいたま市学習状況調査結果の維持並び上昇 ②学びの指標児童アンケートにおいて「基礎的な授業スキル」「主体的な学び」評価項目における肯定的な回答の上昇	・今年度も学力向上カウンセリング研修を実施し、本校の学習状況調査の結果を指導主事から指導を仰ぎながら分析を行った。調査結果は全学年とも良好な結果となった。 ・基礎・基本の徹底、協働的な学習の実践により、学びの指標児童アンケート「基礎的な授業スキル」「主体的な学び」において、校内平均が市平均を上回った。	A	○今後も学力向上カウンセリング研修を活用し、調査結果の分析を継続的に実施して、授業改善を進める。 ○エバンジェリストを中心に、ドリルパーク等の活用による基礎・基本の徹底、オリング・ムーブノートの活用による、協働的な学習を推進する。
		○さいたま市スマートスクールプロジェクト(SSSP)を活用した授業実践	①学校課題研究を通して、図書館資料、タブレット端末等を有効活用した探求的な学び、教科横断的な学びを実践する。	①学びの指標児童アンケートにおいて「探求的な学び」「ICTの効果的な活用」評価項目における肯定的な回答の上昇	・図書館資料、タブレット端末等を有効活用した探求的な学びを実践した。学びの指標児童アンケート「探求的な学び」「ICTの効果的な活用」において、校内平均が市平均を上回った。	A	○スクールダッシュボード、Canvaなどの利活用を促進し、探求的な学びを実践していく。
2	<現状> ○仮設校舎2棟の建設により、特別教室等の利活用について、検討が必要である。 ○R5学校評価（児童用）において、学校生活の充実に関する項目で、肯定的な回答が90%以上であった。 <課題> ○第2仮設校舎完成に伴い、教室配置を大きく変更した。特別教室をはじめ、児童が学習しやすい環境を整備することが急務である。 ○児童一人ひとりの変化にいち早く気づき組織的に対応することが課題である。	○安全・安心の教育環境の整備	①毎月の安全点検の確実な実施と修理・修繕等安全管理を徹底する。 ②有効活用にに向けて、空き教室の整備（第2音楽室、第2図工室、solarむ等）を行う。	①学校評価アンケートの関連項目で肯定的な回答の割合が85%以上 ②空き教室、特別教室の整備3教室以上	・安全・安心の教育環境の整備に関する学校評価アンケートの該当項目の肯定的評価は93.9%で良好な結果だった。 ・solarむの一むの設置・整備と運用、視聴覚室と教材室の不要物の撤去及び廃棄を行い、特別教室の整備を3教室行った。また、会議室を新たに設置し、空き教室を有効活用した。	A	○次年度以降も、児童増が続くため、不要物等を撤去し、児童が活動できるスペースを確保したい。
		○児童一人ひとりへの細やかな教育相談体制の充実	①定期的な生徒指導・教育相談・特別支援教育委員会を開催する。	①学校評価アンケートの関連項目で肯定的な回答の割合が90%以上	・児童一人ひとりへの細やかな教育相談体制の充実に向け、定期的な生徒指導・教育相談・特別支援教育委員会を確実に開催し、組織的に対応した。学校評価アンケートの関連項目で肯定的な回答の割合が86%だった。	B	・いじめ対策委員会の開催や組織的な対応（いじめ対応マニュアル、緊急対応時のフローチャートの作成等）を行った。来年度も、組織的な対応を継続する。また、関係機関との連携も継続していく。
3	<現状> ○昨年度の学校運営協議会において「子ども達の安全な登下校について」学校・家庭・地域の役割について熟議を重ねてきた。 ○「校則の見直し」について、学校運営協議会で児童が提案を行った。 <課題> ○目指す子ども像に向けて、学校・家庭・地域の役割分担を明確にする必要がある。 ○学校運営協議会での議論を家庭・地域にどのように広めていくかが課題である。	○学校運営協議会の充実	①学校運営協議会を年間3回実施する。	①学校運営協議会委員へのアンケート該当項目において肯定的な回答の割合が90%以上	・学校運営協議会では、委員の他、児童、議題に関係するPTA校外委員長なども参加し、登下校の諸課題について熟議した。学校運営協議会委員へのアンケート該当項目において肯定的な回答の割合が90%だった	A	・来年度も、学校運営協議会で熟議のもと、地域、保護者、学校それぞれの役割について確認したい。
		○開かれた学校づくりの推進	①授業参観回数増、全校児童による運動会の実施、公共施設での音楽会の復活など学校公開行事を計画し、実施する。	①学校評価アンケート（保護者）の関連項目の肯定的評価85%以上	・学校公開行事は、授業参観、懇談会1回増、土曜授業公開、公共施設での校内音楽会の復活、5年ぶりの全校での運動会の実施など、5つの公開行事を行うことができた。学校評価アンケート（保護者）の関連項目の肯定的評価は、94%だった。	A	・今年度の成果を活かして、来年度は内容についてさらに吟味したい。
4	<現状> ○昨年度までユニバーサルデザインの視点を取り入れた「体育科」の研究を進めてきた。 ○今年度からカリキュラム・オーバーロードの解消に向けた教育課程の研究を行う。 ○日課表の変更、学校行事・諸会議の精選を進めたことで職員の時間外在校時間の縮減につながった。 <課題> ○時間外在校時間の個人差が大きい。業務改善に向けた組織的な取組が必要である。	○校内研究体制の充実	①外部講師を招いて研修会を行う。 ②教科横断的な視点を軸に年間指導計画を改善する。	①外部講師による研修会を3回以上 ②教科横断的な視点を軸にした年間指導計画の作成完了	・大学教授を招聘し、教科横断的な視点に立った教育活動に関する研修会を3回行った。 ・教科横断的な視点に立った年間指導計画の作成も着実に進めており、年度末に完成予定。また、学校課題研究の中間発表会を開催し、全市に本校の研究を広めた。	A	・教科横断的な視点に立った年間指導計画の工夫、改善並び授業実践をさらに進めていきたい。
		○質的な働き方改革の推進	①さいたま市教育委員会と連携を図り、働き方改革に向けた方策を立案する。	①働き方改革に向けた方策の立案3つ以上	・業務改善ワーキンググループとして、教育委員会バックアップのもと、働き方改革（校務のクラウド化、時間の管理等）に取り組んだ。	B	・働き方会議をもとに、働き方を見直していきたい。